

更に勇気をもって、 自らの力を信じ、前進しよう

BM工業協会会長
原田英樹



最近の日本はいやな事件の報道が続き、又経済界、特に銀行や証券会社は経営のトップが次々と逮捕され、悲しいやりきれない事が多い。株価も低迷し、なんとなく日本全体に暗雲がただよっているような気がしてならない。一方アメリカの経済は好調そのもので、株価は日々高値を記録し、失業率も更に低下しているという。特に55歳以上の高齢者、幼児を持つ女性、新卒者などの就業率も向上しているのは、雇用のニーズも多様化し、弱者も活用する好ましい経済の状況を伺い知る事が出来る。

ひるがえって日々の身の回りの技術課題や成果を見ると、日本の技術者がやり上げる事の出来る、ひょっとすると日本の技術者のみがやり上げる事の出来るものがある。ボンド磁石も市場のニーズがどんどん厳しくなりこの傾向が強くなって来ている。このことは日本にとっては非常に良い事ではないだろうか。例えば肉厚1mm以下、要求は0.5mm以下もあり、要求精度は $\pm 10\mu$ 以下となってきた。磁気特性の高性能化とバラツキの低減要求も更に厳しいものとなっている。これらの要求を満たすのは容易なことでは無い。しかし原料、コンパウンド、金型、プロセス等を詳細につめ、粘り強く勇気を持って研究開発を進めれば、必ずや解決出来ると信じている。

ボンド磁石は現在も圧倒的に日本の生産量が多い。どうも基本的に、ボンド磁石の細かい所に配慮の必要なプロセスは、日本人に適しているのかも知れない。もしもっと簡単に出来るのであれば、市場がHDDや複写機など、良く知られた分野なので、スピーカ用ハードフェライトと同様、とっくに中国で

もっと多量に生産されていて良いように思われる。

我々には多くの成功体験がある。どんな難しいスペックや要求にも敢然と挑戦し克服してきた。例えば先日マグエックスの阿部社長が技術例会でお話された、押出し技術による $0.1\text{mm} \pm 10\mu$ のペーパー磁石等は良い例である。このペーパー磁石は着磁もすばらしく、この厚みでピッタと吸着する。徹夜に次ぐ徹夜の1年近くの執念の努力で成功されたのには、深く敬意を表すると共に、同じ日本人として他の厳しい課題にも必ず成功すると考え、又多くの成功例を知っている。

日本国内で生産する事に適した製品を、もっとも自信を持って日本で生産しなければならないと考える。海外での生産にはそれに適した製品とやり方があるはずである。単に人件費だけの理由で海外移転するのはどうであろうか。アメリカがここ10年ほどの間に見事に転身し、国内と東南アジアで作るものを峻別し、アメリカ国内に旺盛な雇用を作り上げ、それをベースに経済発展を持続している姿は大いに参考にしてゆきたい。

更に勇気を持って、自信を持って、日本人技術者の力を信じ、更に厳しい要求やスペックに挑戦し、前進を続けようではないか。